

はじめに

このセミナーの目標は、「指導」ではなく「合格」です。本研究所では継続的な技術者能力開発法について研究し、新しい指導法を確立してきました。技術者としての能力向上なしには合格はあり得ないからです。

一方、これまでの通信教育は「答案の文章添削」が主体で、能力開発は後回しになりがちでした。この結果「問題解決力」や「技術応用力」といった最重要課題が受講者に押し付けられるという弊害も見られます。また、スクーリングにおける面談指導も講師に対して生徒数が多すぎるため、個別の技術内容の掘り下げもあまり期待できません。添削の「熟練講師」とは実は同じ講座の初期の卒業生が終身的に担当する「老後のアルバイト」も多いようです。



こうした技術士指導の現状を打開するため、本研究所では、(答案の書き方ではなく)技術士としての本質的能力(技術者コンピテンシー)を高められるようマンツーマン面談指導を行います。そして、経験をもとに世界にひとつ、自分だけの最高の答案を作成し、初回必勝の道をご案内します。

指導方法の概要

講座における指導の基本方針は、右図にあるように段階的に確認しながら進めるというものです。大きくは、図 1、2 に示すように

申込書 → 筆記答案 → 体験論文

の 3 段階構成となっています。答案・論文作成は基本的に、

問題予想 → チェックシート →

答案作成

というように進めます。このため技術内容を十分高めながら、答案の書き直しもなく、時間の無駄なく準備ができます。以下の特徴があります。

1. 業績の特定: 申込書作成段階では、合格に十分な業績内容が固まるまでヒアリングし、有利な経歴を 100%コーチングで引き出します。
2. 新規出題対策: 過去問の出題

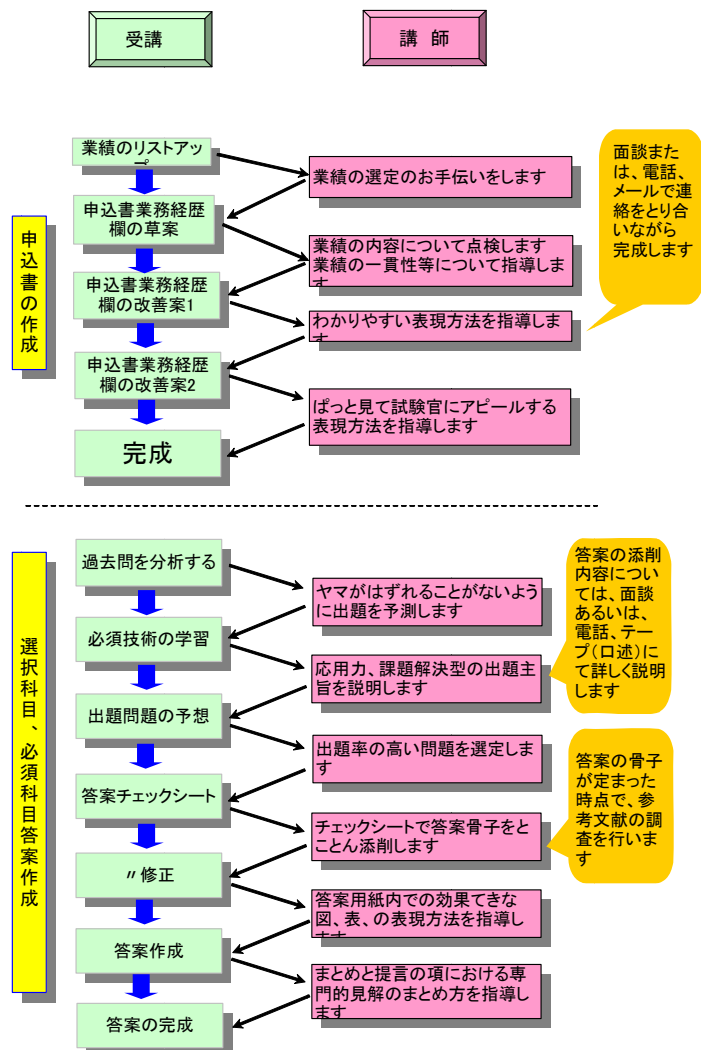


図1 申込書、筆記試験答案指導の流れ

- 傾向を分析し、問題を予測しますので、予想が的中します。
3. チェックシート指導: 答案作成ではチェックシートを用いた指導により合格に必要な答案の骨子を無理なく作れます。これによって世界にひとつ、自分だけの最高のストーリーを組み立てられます。
 4. 問題解決力、技術応用力: プロジェクトマネジメントの手法を応用して、技術士として必須かつ本質的な能力を高めます。
 5. 技術論文: 技術的内容が不足する場合は、技術論文記事を引用して専門家としての見解を養います。調査方法も指導します。(有償にて、調査代行も可能です)
 6. 面談、電話のコーチングにより、受講者様のお考えを確認しながら、段階的に課題を出しますので、継続的に答案内容を高められます。
 7. コンピテンシー(有能さ)をアピールできる答案の作文法を指導します。(別途有償にてプロライティング仕様の模範答案も提供可能です。)

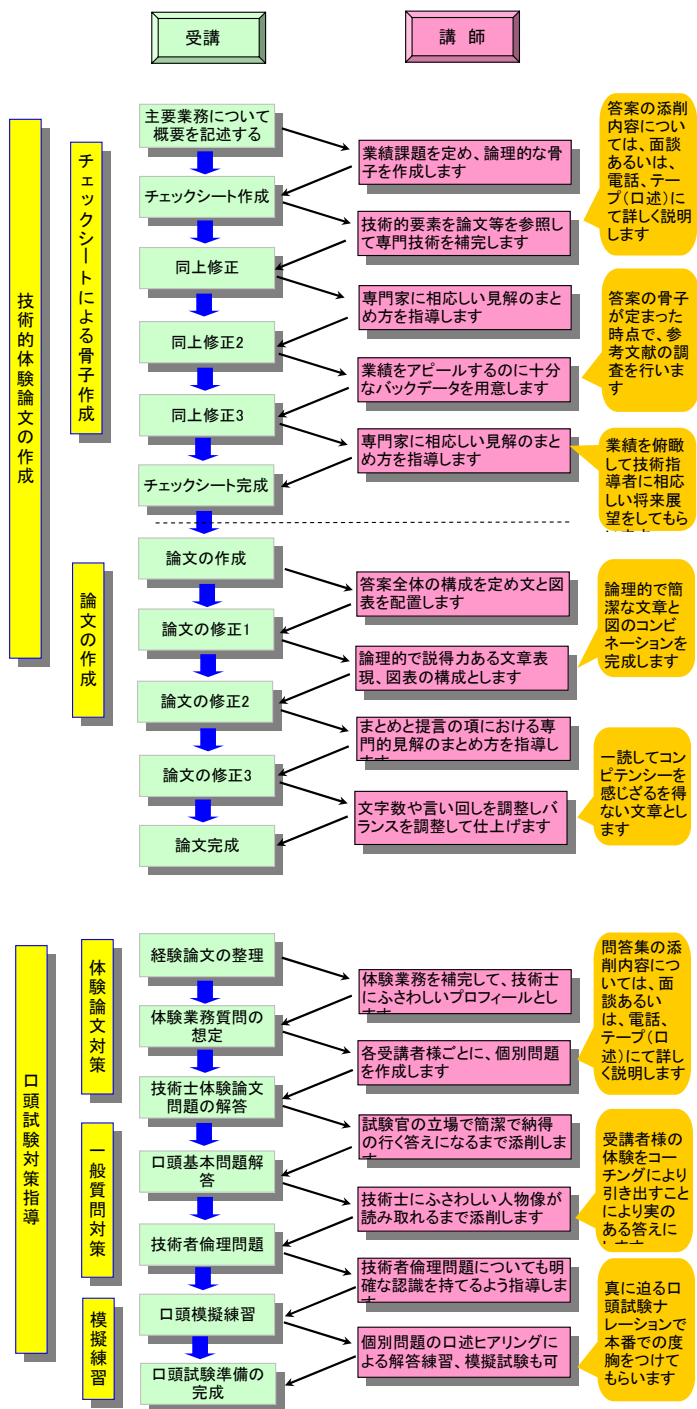


図2 技術的体験論文指導の流れ

受験部門
限定ありません。

セミナーの対象者

技術士第二次試験(筆記試験)合格をめざす人(ただし、技術士にふさわしい専門的経歴をすでにお持ちの方に限定させていただきます)

受講料

メールに明記した価格(消費税込み)と致します。(3回までの分割が可能です。ただし振り込み手数料は受講者側負担とします。全額1回払いも可能です)

受講手続き

初回受講料納入確認後、セミナー契約書¹ 交換後スタートとします

受講期間

手続き後すぐに開始、2011年面接試験日まで

指導項目

1. 申込書の作成指導
2. 筆記試験出題予想(I-1、II-1)
3. チェックシート²による答案内容の骨子のまとめ(I-1、II-1)
4. 答案の文章仕上げの作成、添削
5. 面談、電話等による説明³
6. 参考となる専門技術論文記事の調査方法の指導
7. 「技術士にふさわしい業績」の特定方法の指導⁴
8. 技術的体験論文の作成指導
9. 口頭試験対策指導
10. 口頭試験概要説明
11. 頻出問題の指導
12. 技術的体験論文指導
13. 技術者倫理指導
14. 模擬試験練習
15. 模擬口頭試験

教材

1. セミナーの全体概略説明書
2. 必ずアピールする受験申込み書の書き方
3. I-1 答案作成指導書

¹目的、指導者・受講者の義務、会費、面談時間・場所、面談できない時の措置、口頭試験対策、契約期間、契約解除、疑義の項目などを定めています。

²筆記試験合格に十分な答案の内容を「十分合格できる」レベルまで高めます。具体的には問題点、課題、対策、技術応用、将来展望など答案の骨子をわかりやすく書き出すものです。添削、コーチングで仕上げます。

³実際にお会いできない場合は電話で行います。完成答案に対しては説明内容の口述録音電子ファイルをさし上げています。

⁴技術士答案として高い評価が得られる業績を受講者様の経験の中から探索して提示します。

4. II-1 答案作成指導書
5. 出題傾向分析の方法
6. チェックシートおよび作成方法
7. 技術的体験論文作成方法
8. 論文原稿用紙
9. 過去問題集(ただしウェブ上入手できる場合は除く。)
10. 論文添削結果
11. 論文添削、講評の口述ファイル (メールにてお送りします)
12. 口頭試験対策用教材集

- ① 「セミナーガイダンス・テキスト」口頭試験概要の指導
技術士口頭試験一般問題
専門選択科目
一般必須科目関連対策
技術者倫理
技術コンサルタント対応力
- ② 技術的体験論文の再評価「業績記述チェックシート」
- ③ 「おもしろいほど合格する技術士試験 口頭試験編」/パワーポイント資料
- ④ 上記口頭試験問答集(添削)
- ⑤ 模擬試験練習ツール(受講者様ごとに音声ファイルを作成します)
- ⑥ 模擬口頭試験

面談方法

原則として月 2 回以下、場所は東京都中央区日本橋浜町 1-10-8 またはその近傍(500m 以内)にて、一回 2 時間以内とします。ただし、遠方の方は、メール、電話(電話代は受講者負担)、口述音声ファイルのメール転送、インターネット電話で代替します。集合してのスクーリングはありません。

特長

1. 電話、メール、PDF ファイル転送を利用し、早いレスポンスで相談できます。回数は無制限。短時間でレベルアップが図れます。(多い人は最盛期に 20 回/月を超えるメールのやり取りがありました)
2. 過去問分析、問題予想を行いますので、自信を持って取り組みます。
3. 答案を書き上げてから添削する(文章の修正)のではなく、チェックシートにより「答案の骨子」を段階的に作成しますので、無理・ムダがありません。コーチングの指摘に従って問題箇所を修正し、得意技術をアピールすればよいのです。必ず「誰が見ても合格できる答案」

の構成を組み立てられます。⁵

4. 指導内容を口頭(コーチング)できめこまかく行い、たとえば「出題意図の解釈」など受講者・指導側の共同作業により納得しながら答案の完成度を高められます。
5. 技術者として必要な「問題解決力」、「技術応用力」の考え方を情報テクニクとして学べます。
6. 業務内容に直結した、論文記事をデータベースで検索してもらいますので、専門技術者をアピールできる説得力ある答案作りを可能とします。(検索方法は指導します)
7. 業務経歴をヒアリングし、対策方法をコーチング指導しますので、各受講者様の固有な技術的体験を生かした有利な答案作成が可能です。
8. 筆記試験と口頭試験の一貫指導ですので、筆記試験前に技術的体験論文に着手できます。技術的体験論文の作成には3ヶ月以上かかりますので、筆記試験前に着手しないと十分なものができない可能性があります。

他の機関の指導では得られない効果

1. 「自分の技術の中で自慢できるものは何か?」、「どういったことで他者と差別化すれば有利か?」、「自分は今後どう歩んでいけば更なる飛躍をアピールできるか?」といったキャリア・アドバイスが受けられます。
2. 自分の答案を俯瞰して、「まだ気づいていない発展的要素は何か」、「技術動向から見てこれを盛り込めば飛躍的に評価が高まる」という新たな価値を開発する助言を受けられます。
3. 専門家の研究論文の内容を評価に取り入れることにより、専門家にふさわしい業績評価を可能とします。文章の添削だけでなく、技術者としての方針を修正するために、新たに導入すべき技術的必要事項を指摘しますので、実質的にご自分の技術を高めることができます。
4. 筆記試験合格後、口頭試験指導を無料で受けられます。ただし、申し込み年度及びその次年度までに限ります。

レポート提出回数を目安

受験申込書の書き方添削	3回程度
必須・専門科目答案チェックシート	問題数 15問 × 5回程度
必須・専門科目答案	問題数 15問 × 5回程度
体験業務チェックシート	業績数 2例 × 5回程度
体験論文	答案数 1 × 5回程度
口頭試験問答集	3回程度

⁵一般の指導機関では、答案の添削を行いますので、文章の直しが主体となります。答案を全面的に修正したとすると、せいぜい3回が限度です。しかも、講師の経験(暗黙知)に依存した指導なので最後まで合否が不明です。本セミナーでは、合格理論に基づいて、まず初めに合格に十分な答案の骨子を特定しますので、答案の初期段階で合格を確信できます。

その他注意事項

1. 提出されたシートや答案類の著作権はすべて当研究所に許諾されるものとします。(技術者指導法を研究、紹介する目的で利用し、論文や講演に引用します。個人情報を漏洩させないことをお約束します)
2. 出題問題の予測は、「出題傾向分析の方法」に従って、実際の予測作業は受講生の方に行っていただきます。(予測作業は試験準備のひとつとお考えください)その予測結果に従って実際に出る可能性の高い問題の選定は講師がお手伝いします。

以上